

ベトナム国立衛生疫学研究所に新興・再興感染症研究に係る共同研究室を開所



開所式の記念撮影

3月17日(金),ベトナム社会主義共和国ハノイ,ベトナム国立衛生疫学研究所(NIHE:National Institute of Hygiene and Epidemiology)において、「新興・再興感染症研究拠点プロジェクト」共同研究室(フレンドシップ・ラボラトリー)の開所式が盛大に執り行われました。

日本側からは服部則夫在ベトナム日本大使館特命全権大使,富岡 勉衆議院議員,林 幸秀文部科学省文部科学審議官,永井美之感染症研究ネットワーク支援センター長(理化学研究所),菊地文夫JICAベトナム事務所長,ベトナム側からはチャン・ティー・チュン・チェン保健大臣,計画投資省高官などベトナム政府主要関係機関代表者,また,IVI(International Vaccine Institute)などの国際機関の代表者を迎え,これら来賓の代表者と主催者である齋藤学長及びムエン・トラン・ヒエンNIHE所長が,世界的脅威となっている感染症に対する疫学的・臨床的研究の日越共同研究プロジェクトの時宜を得た開始の意義と重要性を讃え,今後の活動の成功を祈念しました。

スピーチに続いて,NIHE施設内にあるNIHE・長崎大学共同研究室(フレンドシップ・ラボラトリー)の看板にかけられていた幕を服部大使とベトナム保健大臣が外し,共同研究への第一歩を印す除幕式も行われました。引き続き,現地駐在研究者としてプロジェクト開始の準備に奔走した山城 哲本学教授が,開所式前日に日本から搬送されラボに設置されたばかりの最新研究機器の説明を行いました。

この事業は,文部科学省が2005年度に立ち上げた新興・再興感染症研究拠点形成プログラムの一環であり,国内では,感染症研究拠点として研究設備の充実等を図り,国外では,現地研究機関との協力の下,海外研究拠点を設置し,我が国の研究者が恒常的に現地で研究を行うことができる体制を整備するものです。当ベトナム拠点では,本学がNIHEと共同研究を実施するほか,国立国際医療センターはバクマイ病院(ハノイ)と協力して研究を実施します。これらの共同研究を通じて,デング熱,SARS,鳥インフルエンザなどを含む新興・再興感染症が流行する根本的要因を科学的に追求し,新しい予防対策に資することが目標となっています。

(国際連携研究戦略本部)